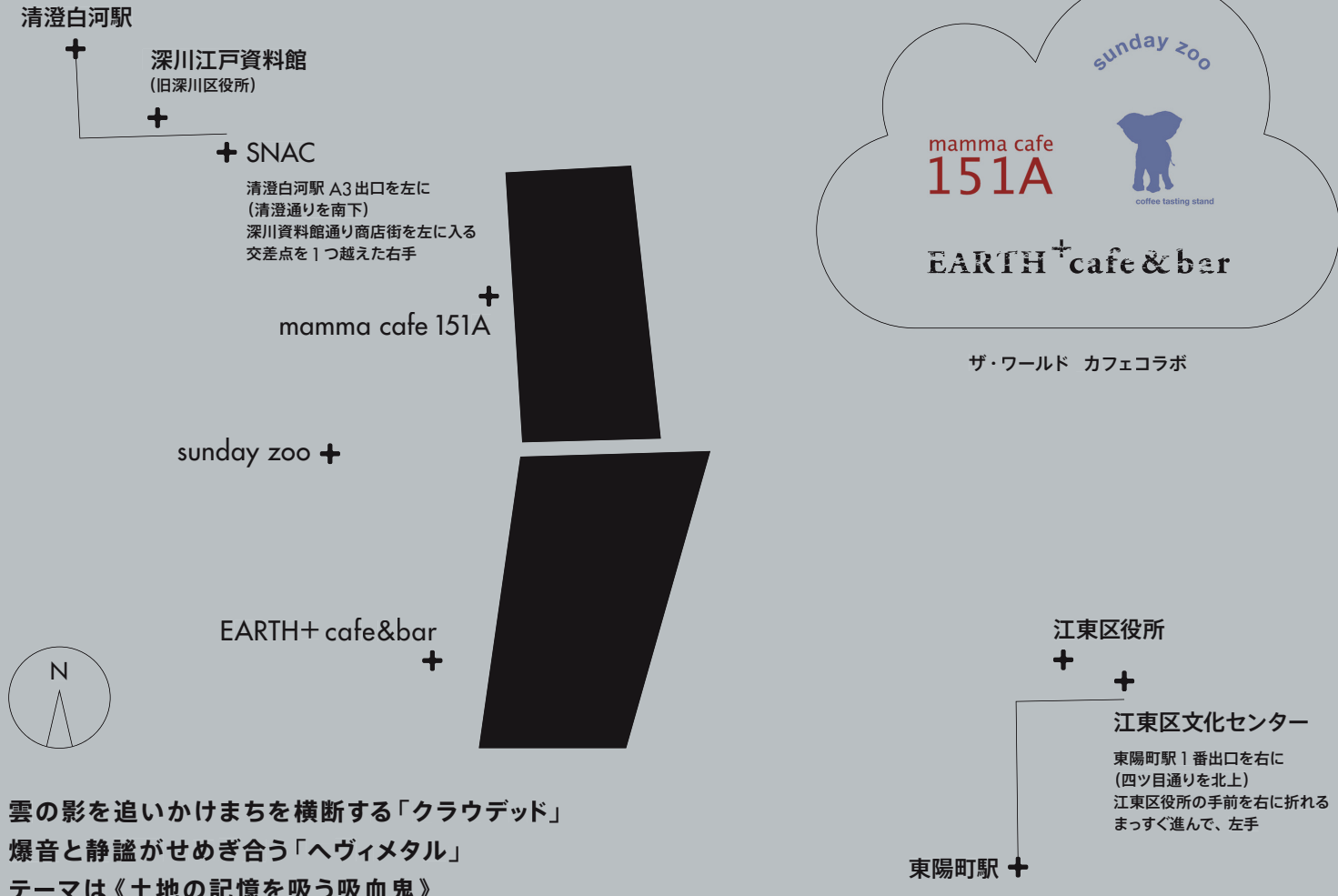




雲の影を追いかけまちを横断する「クラウドッド」
爆音と静謐がせめぎ合う「ヘヴィメタル」
テーマは《土地の記憶を吸う吸血鬼》

クラウドッド 散歩型

2015.3.20(金) 21(土) 22(日)

出発地点：SNAC

江東区三好 2-12-6-1F

清澄白河駅 徒歩3分

14:00～16:00 までに出発地点にお越しください。受付後、散歩しながら複数の会場でのパフォーマンスを体験していただきます。パフォーマンスの合計時間は1時間30分程度、移動に要する時間は1時間程度、終演は18:30頃を予定しています。途中のカフェにてドリンクを楽しめるチケットをご用意いたします。時間に余裕を持ってお越しください。

出演：皆木正純 阿部遥 山本晴歌 益田仲子
秋本ふせん 伊藤雅子 後藤海春 横山八枝子
小松杏里 崎本実弥 安藤暁子 有泉汐織
伊藤陽太郎 梅内はるか 古茂田梨乃 塩田将也

ヘヴィメタル 劇場型

2015.3.25(水) 26(木) 19:00開演

開場は開演の30分前 終演は20:30頃を予定

会場：江東区文化センターホール

江東区東陽 4-11-3

東陽町駅 徒歩5分

出演：皆木正純 阿部遥 益田仲子 安達みさと
阿部秀宣 吉澤慎吾 平多理恵子 白井剛

特設サイト、Facebook、Twitterで情報発信中！
the-world-dance.tumblr.com
facebook.com/kakuyaohashianddancers
Twitter @DancersOffice

「ザ・ワールド」への寄付のお願い

パフォーマンスプロジェクト「ザ・ワールド」では、公演開催にかかる費用に対して多くの方のお力添えを必要としています。公益社団法人企業メセナ協議会を通じて寄付をおこなっていただくと、税制の優遇を受けることが可能です。寄付は個人・法人問わず1000円から。寄付方法および優遇内容については、企業メセナ協議会のWebサイトをご覧ください。
<http://www.mecenat.or.jp/support/donation.html>

振付・構成・演出：大橋可也

ドラマトゥルク：長島確

リサーチャー：加藤雄大 小林あずさ 坂上翔子 涌井智仁
ドラマトゥルク補：メル
音楽：涌井智仁 鼓次郎
映像：吉開菜央
衣装：ROCCA WORKS
照明：筆谷亮也
音響：牛川紀政
舞台監督：原口佳子(モリブデン) 小野哲史
写真：GO
ドキュメントデザイン：石塚俊
フライヤーデザイン：agasuke
制作：坂上翔子 小林あずさ
制作協力：麻生琴 平岡あみ 柴田温比古 及位友美(voids)
撮影協力：そら庵

■料金

パスポート：4,000円

※クラウドッド、ヘヴィメタルの両公演ご覧いただけます

※前売のみ

一般：3,000円

U29(29歳以下) 江東区民 ティアラ友の会：2,500円

※クラウドッド、ヘヴィメタル片方の公演のみ

※当日は各500円増し

■チケット取扱い

大橋可也&ダンサーズ Webサイト

<http://dancehardcore.com>

江東区文化センター 03-3644-8111

<http://www.kcf.or.jp> (PC・携帯)

※パスポート、クラウドッド単体のチケットは
大橋可也 & ダンサーズのための取り扱いとなります。

※ティアラ友の会はヘヴィメタル単体のみ、
江東区文化センターのための取り扱いとなります。

■問い合わせ

大橋可也&ダンサーズ 03-6905-9264

office@dancehardcore.com

<http://dancehardcore.com>

主催：一般社団法人大橋可也 & ダンサーズ
共催：公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 江東区文化センター
助成：芸術文化振興基金
アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
認定：公益社団法人企業メセナ協議会
協力：公益財団法人セゾン文化財団



そら庵

公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団



公益財団法人セゾン文化財団

クラウドッド

2015.3.20-22

清澄白河を出発

ヘヴィメタル

2015.3.25-26

東陽町にて

土地の記憶を
吸う吸血鬼
大橋可也 & ダンサーズ
「ザ・ワールド」解説

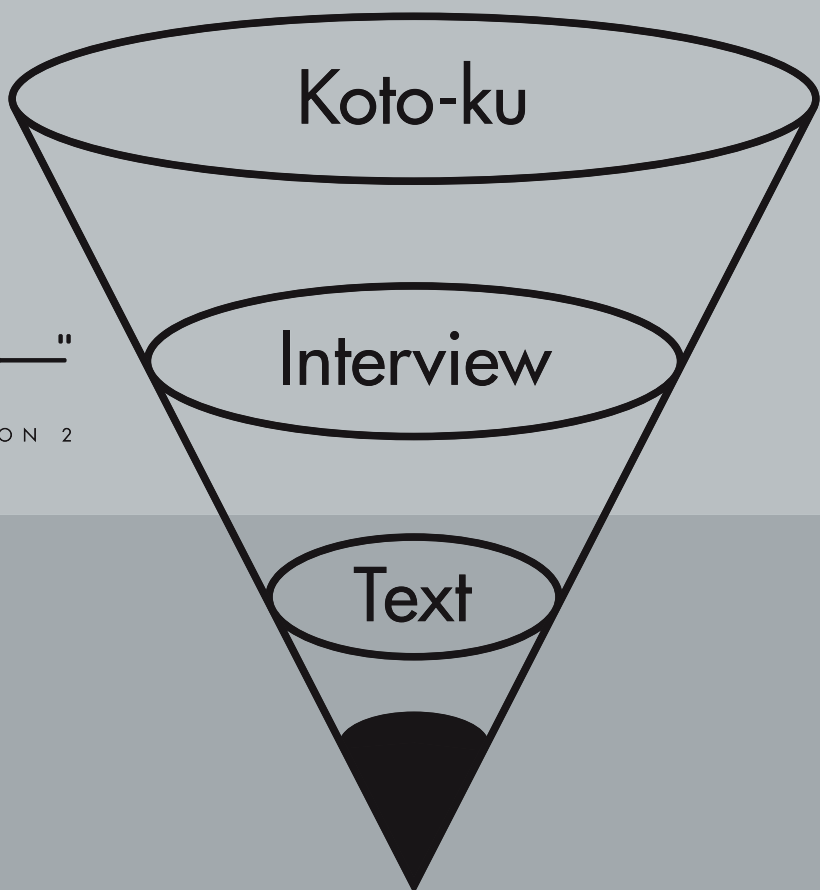
土地の記憶を吸う 吸血鬼のプロジェクト——「ザ・ワールド」

大橋可也&ダンサーズは、2013年から、江東区でリサーチにもとづいてパフォーマンスをつくるプロジェクトを進めています。モチーフは吸血鬼。アーティストが異物感をもったまま地域に関わっていくことを、どのようにプロジェクト化できるのかと考えた結果です。

いわゆる吸血鬼モノには2種類あり、ひとつはドラキュラのようなスーパーモンスター。もうひとつは種族としての吸血鬼が、ひっそりとまちへ移り住んでくる話。このプロジェクトは後者のタイプで、静かにネットワークを広げていければと思っています。われわれの吸血鬼は、血を吸うかわりに《土地の記憶》を吸います。

2013年からリサーチャーがまちの情報や言葉を集め、2014年の3月にはそれをもとにダンス公演と、展示およびトークイベントをおこないました。来る2015年3月には「シーズン2」と題し、散歩型と劇場型の2種類の公演をおこないます。

このプロジェクトは少なくとも2020年まで続ける計画です。東京オリンピック・パラリンピックへ向け変貌していくまちの記憶のアーカイブにもなるはずです。目撃者に加え、さまざまな協力者を募集しています。ぜひご参加ください。



ザ・ワールド
THE WORLD SEASON 2

吸血鬼の歴史

「ザ・ワールド」がモチーフにしている吸血鬼。
予備知識としてその歴史をふりかえってみましょう。

吸血鬼といえばドラキュラ。黒いマント。蒼ざめた顔。口をあけると鋭い牙が二本、それを美女の首すじに突き立てて……。この有名なモンスターの名前と典型的なイメージは案外新しく、アイルランドの作家ブラム・ストーカーの小説『ドラキュラ』（1897年）とともに誕生した。この小説の吸血鬼『ドラキュラ』は、トランシルヴァニア（ルーマニアの地方）の古城に居を構える伯爵で、イギリス人の弁理士がそこを訪れるところから物語は始まる。

ストーカーはドラキュラ伯爵のモデルに実在の人物を利用している。ヴラド・ツェペシュ（別名ドラキュラ、または串刺公、1431〜1476年）という、ワラキア（ルーマニアの地方）の支配者である。この人物はオスマン帝国の侵略から祖国を守るため戦った英雄でもあったが、敵兵のみならず臣民をも串刺にして恐れられ、本人の死後も死体が消えるなど、不吉な伝説を生んだ。だがこの人物には、血を吸う伝説はない。別のところに由来する吸血鬼のモチーフを、この暴君のイメージと結びつけたのが、作家ストーカーの発明だった。

では吸血鬼のモチーフはどこから来たのだろう。直接『ドラキュラ』に先立つ小説では、ストーカーと同じアイルランドの作家レ・ファニユが女吸血鬼を描いた『吸血鬼カミラ』（1872年）が有

名だ。それ以前、広く文学や芸術に現れてくるのは18世紀あたりからである。

そもそも吸血鬼の伝説は、東欧やバルカン諸国に由来するようだ。吸血鬼を表す言葉『ヴァンパイア vampire』はスラヴ語源とされ、18世紀になって英語に入ってきた。もともと民間伝承のなかでは甦る死体、屍鬼、不死者である。古来からの信仰のなかで、死体（の再生）を恐れ、その一方、生命の象徴として血を尊ぶ考えがあったのだろう。



かたや、いま知られている吸血鬼の特徴はさまざまである。昼は眠り、夜に活動する。鏡に映らない。霧や蒸気に姿を変える。血を吸われた者もまた吸血鬼になる。太陽、十字架、ニンニクに弱く、退治するには胸に杭を打ち込まねばならない……。こうした特徴のほとんどは、文学や映画を通して与えられたものである。民話のなかの吸血鬼は必ずしも女性ばかりを狙うわけではないし、昼間も平然と歩きまわるのだ。

20世紀に入ると、映画産業の発展とも相まって吸血鬼は人気の怪物となったが、もう一度重要な転機が訪れる。アメリカのホラー作家ステイヴン・キングの小説『呪われた町』（1975年）である。キングはこの小説で、吸血鬼のさまざまな特徴を踏まえながら、吸血鬼がアメリカの片田舎の町へ移り住んでくる物語を生み出した。

思い返せばストーカーの小説でも、ドラキュラ伯爵はイギリスへの移住を計画しており、ロンドンに屋敷を買う手続のために弁理士を呼んだのだ。キングはこれを裏返し、吸血鬼（もはやドラキュラ伯爵ではない）が移り住んでくるコミュニティの側から、群像劇として物語を描いていた。この視点の転換は重要である。吸血鬼を退治に行くのではない。彼らがやってくるのだ。

ドラキュラばかりが吸血鬼ではない。20世紀の後半には、むしろ種族としての吸血鬼があらためて注目され、いろいろな映画や小説が生み出された。そこにあるのは、異種族への恐れと興味、永遠の若さや不死・不滅へのあこがれと苦しみだろう。日本でも萩尾望都の漫画『ボ一の一族』が有名な吸血鬼物であるし、最近では小野不由美の長編小説『屍鬼』が人気を博した。『屍鬼』はキングのアイディアを現代日本に移しかえたもので、ある村へひそかに移住してくる吸血鬼たちの物語である。

地元の声

昔このあたり、材木屋がたくさんあって、素木の池がたくさんあった。この辺の人は当然知っているんですけど、その池がなくなっちゃったから、こんな公園になった。全部新木場に移動しちゃったから。それで、逆に人が住む場所も増えたから、コンビニエンスストアも増えちゃって、人がいっぱい。山の手の方から引越してきた、マンション族のひとたちとか。かなり多いですよ。物価が安いから。東京都内では、江戸川と荒川に次いで、安いんじゃないかと。（Bさん）

ビニができたからまだね。ただ飲み屋さんがちょっとあるくらいでさ。なんにもないのよね。（Tさん）

ここはもう最高。どこでも住めば都なんだけどね。（Rさん）

この団地に住んでいるんです。本当にここはなんの特徴もないかな。歴史がないから。この盆地は、私たちが若いときにできたんだけどね、この団地はすごい有名でね、大型団地でもこれしかなかった。駅もないし。開発されたんでしょうけどね。団地の中で住みやすいかっていったらそうでもないし、何%かであったら住みやすさ40%って感じかな。住みにくさのほうがちゃんと言える。例えば音ね。響くから文句、下からしよっちゅう。いいとこでいったら気が楽ってこと。（Nさん）

住みやすいと思います。私いろんなところ転々としていたんですけど子育てするならこの辺はいいんじゃないですかね。江東区って言うときと豊洲とか湾岸の方が人気があるけど、やっぱりこっちの方が下町っぽいし、物価も安いし。この辺で買い物するとすごく安くてびっくりしますよ。えーこんなに安いのも、子育てもしやすいと思います。人通りも多いし、いいと思います。（Mさん）

でもここいらは住みやすくていいですね。うん、便利、便利。どこ行くにも便利だし、バスも通ってるし。で、夜になるとね、うちらなんかは1本こっち来ちゃうから意外と静かなのよ。人通りがもうあんまり。それでもう商店街がないから、いまコン

移住の参考に話をきいてみました。



Dance